

「令和7年度病虫害発生予報第7号」の発表について

○今後の主要な病虫害の発生予察情報（発生予報）については次のとおりです。

- ・ 水稻では、斑点米カメムシ類（イネカメムシを含む）の発生について1道2府32県で注意報が発表されており（9月9日現在）、今後も全国の複数の地域で多くなると予想されています。
- ・ 豆類では、大豆の吸実性カメムシ類の発生が、東北、北関東、北陸、東海、近畿及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。
- ・ 野菜・花きでは、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウの発生が、全国的に多くなると予想されています。
- ・ 果樹では、なしのハダニ類の発生が、南東北、北関東、北陸及び中国の一部の地域で多くなると予想されています。また、果樹カメムシ類の発生が、東北、北陸、東海、四国及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。

この他、かんきつのハダニ類等、地域によっては多くなると予想されている病虫害があるので注意してください。

また、今後も継続して気温が高くなる見込みであることから、病虫害の発生量の増加や発生時期の長期化により、農作物への被害が増えるおそれがありますので、発生状況を注意し、適期の防除を実施してください。

国の発生予察情報について

国は都道府県の協力の下、植物防疫法（昭和25年法律第151号）に基づき、病虫害の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、病虫害の発生調査の結果等を分析し、病虫害の発生予察及び防除対策に係る情報（発生予察情報）を提供しています。

本予報は、都道府県が提供する発生予察情報を取りまとめた情報になりますので、地域における情報の詳細は、都道府県病虫害防除所のホームページ等を参照してください。

国の病虫害発生予察情報及び都道府県病虫害防除所のリンク

参照URL: <https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/index.html>

気象

気象庁の向こう1か月の予報（9月4日付け）では、気温は全国で高いと予想されています。降水量は、北日本、東日本日本海側で平年並、東日本太平洋側、西日本で少ない、沖縄・奄美で平年並と予想されています。

気象庁ホームページ

参照URL: [気象庁 Japan Meteorological Agency](https://www.met.go.jp/)（外部リンク）

水稻で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病虫害及びその地域

作物名	病虫害名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
水稻	いもち病		甲信、東海、中国、四国
	斑点米カメムシ類	南東北、関東、甲信、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州	
	紋枯病	九州	南関東、甲信、近畿、中国、四国

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

・**斑点米カメムシ類**の発生が、南東北、関東、甲信、北陸、東海、近畿、中国、四国及び九州の一部の地域で多くなると予想されています。なお、今年は35道府県（延べ46件）から注意報が発表されています。

本虫は、多くの種がほ場周辺の雑草に生息し、出穂期になるとほ場に侵入し穂を加害します。被害の程度は、出穂期、ほ場への本虫の侵入量、カメムシの発生種の構成等によって異なるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、ほ場の観察を行い、適期に防除を実施してください。また、地域の作型や斑点米カメムシ類の発生状況により異なりますが、地域の実情に応じた防除を徹底し、さらに発生が多い場合には追加の薬剤散布を実施してください。

水田周辺の除草は本虫の発生量の抑制に効果的ですが、出穂期直前の除草は、本虫の水田への侵入を助長し被害を増加させるおそれがあるため、出穂期の10日前までに完了してください。また、地域一斉で除草すると効果的です。

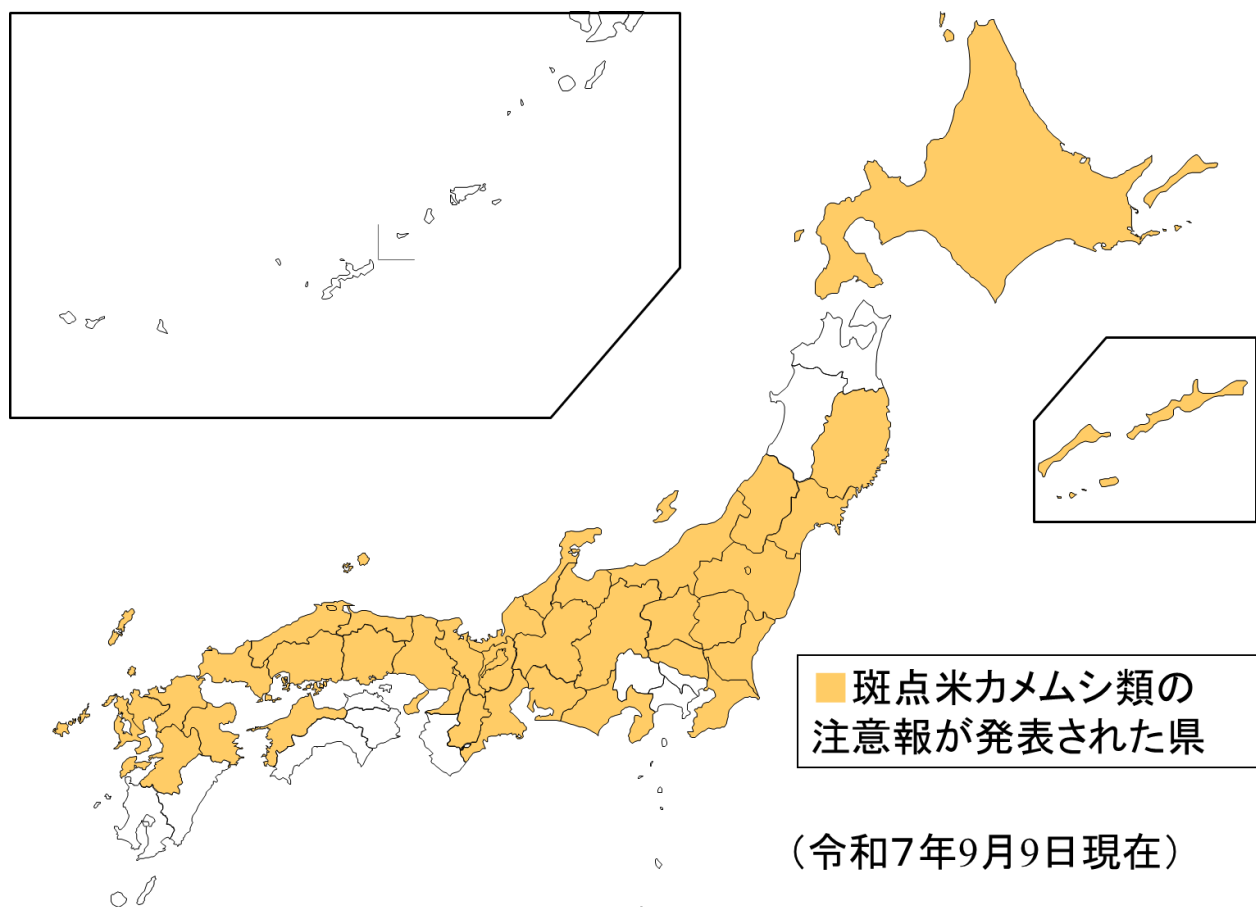
このほか、斑点米カメムシ類に含まれる**イネカメムシ**は、斑点米だけでなく不稔被害も引き起こし、令和6年度は37都府県で確認され、イネカメムシによる減収被害が生じた地域も報告されています。イネカメムシによる被害を防止するため、下記の取組を実施してください。

・本虫による不稔を防止するためには、他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、出穂期に防除を行うことが重要です。過去から発生量が多い、または発生量が増加傾向の地域では、不稔を防止するため、出穂期の防除を実施してください。なお、高温によって出穂期が早まるおそれがあることから防除適期を逃さないよう注意してください。

・本虫は、斑点米も生じさせることから、発生が多い場合は、斑点米の発生を防止するため出穂期以降の2回目防除を実施してください。

・一部では薬剤抵抗性個体が確認されていることから、同一系統の薬剤の連用は避け、ローテーション散布を実施してください。

・本虫は、稲を好んで加害することから、防除が行われていないほ場（飼料用米ほ場等）、周囲より出穂が早い品種又は遅い品種のほ場は、集中加害を受ける場合があることから、これらのほ場は発生に注意してください。なお、イネカメムシの多くは、昼間は株元に潜んでいることから、早朝や夕方が見つけやすいです。



・**紋枯病**の発生が、九州の一部の地域で多くなると予想されており、長崎県から注意報が発表されています。今後、断続的な降雨がある場合には本病が急激に発生するおそれがあります。本病は高温多湿条件で発生が助長されます。昨年多発したほ場では本年も多発するおそれがあるため注意が必要です。上位葉が発病すると減収に繋がるため、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、水田の観察を行い、上位葉に進展しないよう本病の発生状況に応じた防除を実施してください。

豆類で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及びその地域

作物名	病害虫名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
大豆	吸実性カメムシ類	東北、北関東、北陸、東海、近畿、北九州	南関東、甲信、中国、南九州

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

・吸実性カメムシ類の発生が、東北、北関東、北陸、東海、近畿及び北九州の一部の地域で多くなると予想されており、滋賀県から注意報が発表されています。本虫の飛来状況は地域や園地により異なるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、園内の観察をきめ細かく行い、飛来が認められた場合は、適期に防除を実施してください。

野菜・花きで各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病虫害及びその地域

作物名	病虫害名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
いちご	ハダニ類	南東北、東海	北関東、南関東、四国、北九州、南九州
	炭疽病	四国	北関東、南関東、東海
きゅうり	アブラムシ類		南東北、甲信、四国
	褐斑病	北東北	近畿
	炭疽病		北東北、近畿、中国、四国
トマト	アザミウマ類	南東北	甲信、北陸
	コナジラミ類	北関東	北東北、南関東、甲信、北九州
ねぎ	アザミウマ類	南東北、北関東、北陸、東海、近畿、九州	北東北、南関東、四国
	ネギハモグリバエ	北東北	南東北、北陸、近畿、北九州
	黒斑病	南東北	北東北
きく	アザミウマ類	北関東	四国
	ハダニ類	南東北	四国
アブラナ科共通	コナガ	北陸	北東北、近畿、中国
作物共通	オオタバコガ	東北、関東、北陸、東海、近畿、四国、南九州	甲信、北九州
	シロイチモジヨトウ	北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、四国	中国、九州
	ハスモンヨトウ	南東北、北関東、甲信、北陸、東海、中国	北東北、南関東、近畿、九州

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

作物共通

・オオタバコガ、シロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウの発生が、全国的に多くなるまたはやや多くなると予想され、多くの県から注意報が発表されています。ほ場を見回り発生状況に注意しつつ、都道府県が発表する発生予察情報等を参考に、適期に防除に実施してください。また、結球野菜では、結球内部に食入した場合に防除が難しくなることから、結球前に防除を実施してください。

なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤を適切に選定してください。

ねぎ

・アザミウマ類の発生が、南東北、北関東、北陸、東海、近畿及び九州の一部の地域で多くなると

予想されています。ほ場を見回り発生状況に注意しつつ、都道府県が発表する発生予察情報等を参考に、発生初期から防除を実施してください。

なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤を適切に選定してください。

果樹・茶

果樹・茶で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病虫害及びその地域

作物名	病虫害名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
かき	ハマキムシ類	南関東、東海	
かんきつ	アザミウマ類	東海、北九州	
	かいよう病	東海、中国	九州
	ハダニ類	南関東、近畿、北九州	東海、四国、南九州
	黒点病	東海、南九州	
なし	シンクイムシ類	北関東、北陸	北東北、南東北、甲信、中国、九州
	ハダニ類	南東北、北関東、北陸、中国	北東北、甲信、近畿、北九州
もも	シンクイムシ類		南東北、甲信、四国
	ハダニ類	南東北	甲信、中国、四国
りんご	シンクイムシ類	北東北、北陸	甲信
	ハダニ類	東北、北陸	甲信
果樹共通	果樹カメムシ類	東北、北陸、東海、四国、北九州	南関東、甲信、中国
茶	アザミウマ類	東海、近畿、南九州	
	チャノホソガ	南関東	近畿
	チャノミドリヒメヨコバイ	南九州	東海、近畿、北九州
	ハダニ類	南関東、近畿、北九州	北東北、東海、南九州
	ハマキムシ類	南関東	近畿、南九州

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

- なし
- ・**ハダニ類**の発生が、南東北、北関東、北陸及び中国の一部の地域で多くなると予想されており、鳥取県から注意報が発表されています。ほ場を見回り発生状況に注意しつつ、都道府県が発表する発生予察情報等を参考に、発生初期から防除を実施してください。
- なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤を適切に選定してください。

- 果樹共通
- ・**果樹カメムシ類**の発生が、東北、北陸、東海、四国及び北九州の一部の地域で多くなると予想されており、徳島県から注意報が発表されています。今後、当年世代（越冬世代以降の世代）を中心

に、餌を求めて園地を移動するようになります。本年の越冬世代の発生が多かった地域では当年世代の発生量に注意が必要です。

本虫の飛来状況は地域や園地により異なり、果樹カメムシ類の被害を防止するためには、飛来初期の防除が重要です。昨年は、ほ場の見回り頻度が少なかったため、飛来に気付くのが遅れ、被害が生じた事例が報告されています。都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、園内の観察をきめ細かく行い、飛来が認められた場合は、飛来初期から防除を実施してください。果樹カメムシ類は薄暮期から夜間を中心に活動するため、夕方の薬剤散布が効果的です。

また、春の発生量が少ない地域においても、スギ・ヒノキの球果が豊富な場合、主要種であるチャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシが増え、秋の発生量が増加するおそれがあることから、警戒を緩めずに対策に取り組むことが重要です。

都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

令和7年8月6日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は以下のとおりです。

警報

発表はありません。

注) 重要な病害虫が大発生することが予測され、かつ、早急に防除措置を講ずる必要がある場合に発表します。

注意報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
8月6日	岡山県	水稻	斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ等）
8月6日	佐賀県	早植え水稻及び普通期水稻	斑点米カメムシ類
8月6日	山口県	水稻	斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、イネカメムシ、アカスジカスミカメ等）
8月7日	群馬県	水稻	イネカメムシ
8月7日	山形県	水稻	斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）
8月7日	鳥取県	ナシ	ハダニ類
8月7日	兵庫県	野菜類、花き類、豆類	シロイチモジヨトウ
8月13日	愛媛県	水稻（早期、普通期）	斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、イネカメムシ等）
8月13日	千葉県	ネギ	シロイチモジヨトウ
8月13日	千葉県	野菜（特に果菜類）・花き類	オオタバコガ
8月15日	富山県	ネギ、その他野菜・花き類	シロイチモジヨトウ
8月18日	鹿児島県	サトウキビ	イナゴ類（タイワンツチイナゴ）
8月20日	熊本県	早植え、普通期水稻	斑点米カメムシ類
8月20日	三重県	ダイズ・野菜類・花き類	ハスモンヨトウ

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
8月22日	群馬県	水稻	斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）
8月22日	埼玉県	ネギ、ブロッコリー、ダイズ	シロイチモジヨトウ
8月22日	奈良県	水稻	斑点米カメムシ類
8月22日	北海道	ねぎ類、あぶらな科野菜、うり科野菜、まめ科作物、なす科作物、てんさい等	シロイチモジヨトウ
8月25日	滋賀県	ダイズ	ミナミアオカメムシ
8月27日	大分県	ピーマン	斑点病
8月28日	石川県	ねぎ、アブラナ科野菜等	シロイチモジヨトウ
8月28日	長野県	大豆、野菜類、花き類、果樹類など	ハスモンヨトウ
8月28日	福島県	野菜類・花き類	ハスモンヨトウ
8月28日	栃木県	ねぎ、だいず、その他野菜類、花き類	シロイチモジヨトウ
8月29日	愛媛県	いちご	炭疽病
9月1日	埼玉県	ダイズ、野菜類、花き類	オオタバコガ
9月2日	大阪府	ねぎ類、キャベツなどのあぶらな科野菜、しゅんぎく、花き類など	シロイチモジヨトウ
9月5日	長崎県	水稻	紋枯病
9月5日	大分県	トマト、ミニトマト	トマトキバガ
9月8日	徳島県	果樹全般（特に、カンキツ類、カキ、キウイフルーツ）	果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ）
9月8日	徳島県	野菜類（特にブロッコリー、レタス）	オオタバコガ

注) 警報を発表するほどではありませんが、重要な病害虫が多発することが予測され、かつ、早めに防除措置を講じる必要がある場合に発表します。

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
8月15日	栃木県	ぶどう及びなし	チュウゴクアミガサハゴロモ
8月19日	香川県	カンキツ、キウイフルーツ、 オウトウ、ツバキ	チュウゴクアミガサハゴロモ
8月25日	愛媛県	トマト	トマト立枯病
8月28日	福島県	スイカ	スイカ黒点根腐病
9月5日	埼玉県	ナス	ナスこうがい毛かび病

注) 各都道府県において、新たな病害虫を発見した場合及び重要な病害虫の発消長に特異な現象が認められた場合であって、従来と異なる防除対策が必要となるなど、生産現場への影響が懸念される場合に発表します。

病害虫の生態等の生物学的情報や防除に関する情報の詳細については、各都道府県の病害虫防除所のホームページ等を参照してください。

見慣れない病害虫被害が発生していた場合の対応

植物防疫法により、重要病害虫発生時の通報が規定されています。我が国未発生又は我が国の一部のみが発生している重要病害虫が、万が一国内の未発生地域に侵入した場合、国内の農業生産に重大な損害を与えたり、農産物の輸出を阻害するおそれがあります。こういった重要病害虫の侵入に伴う国内の農業生産や輸出への影響を防止するためには、国内の未発生地域への重要病害虫の侵入を早期に発見し、速やかに的確な防除を実施することが重要です。

農作物に見慣れない病害虫被害が発生していた場合には、最寄りの植物防疫所又は都道府県の病害虫防除所等にお知らせください。

植物防疫所の連絡先

参照URL:<https://www.maff.go.jp/pps/j/introduction/domestic/dsinnyuu/221121.html>

都道府県の病害虫防除所の連絡先

参照URL : <https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/boujoshou.html>

（地域）

北海道：北海道

東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

北東北：青森県、岩手県、秋田県

南東北：宮城県、山形県、福島県

関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

北関東：茨城県、栃木県、群馬県

南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

甲信：山梨県、長野県

北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県

東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県

南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県

沖縄：沖縄県

（発生量（程度））

多い（高い）：やや多いの外側10%の度数の入る幅

やや多い（やや高い）：平年並の外側20%の度数の入る幅

平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅

やや少ない（やや低い）：平年並の外側20%の度数の入る幅

少ない（低い）：やや少ないの外側10%の度数の入る幅

（平年値は過去10年間の平均）

（参考）今後の発表予定日

第8号：令和7年10月8日（水曜日）

第9号：令和7年11月12日（水曜日）

第10号：令和8年3月11日（水曜日）

（参考）これまでの発表

第1号：令和7年4月16日（水曜日）

第2号：令和7年5月14日（水曜日）

第3号：令和7年6月11日（水曜日）

第4号：令和7年7月9日（水曜日）

第5号：令和7年7月23日（水曜日）

第6号：令和7年8月6日（水曜日）

【お問合せ先】

消費・安全局植物防疫課

担当者：岡田、城野、古澤

代表：03-3502-8111（内線4562）

ダイヤルイン：03-3502-3382